

[名古屋大学教育発達科学研究科2015年度修了生・修士論文抄録]

教科におけるキャリア教育の取組みに関する実証的研究 —高等学校公民科「現代社会」に着目して—

平林 奈緒子

< 修論要約 >

教科におけるキャリア教育は、学校における日常的な場面で体系的・継続的に実施するために必要である。教科においてキャリア教育を行う意義は、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」によって明確に示されているにも関わらず、その実施率は依然として低い。全国の全日制高校4838校の進路指導主事に対して行われた「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」によれば、教科の時間内でキャリア教育を実施している、と答えた割合は29.2%⁽¹⁾である。

本研究は、教科におけるキャリア教育の教育課程上の位置づけの違いを整理した上で、教科の中でも特に公民科の科目「現代社会」に着目し、キャリア教育の実施状況と課題を明らかにするために、岐阜県の高校で「現代社会」を教える教師7人に行ったインタビュー調査研究である。

調査データの分析の結果、岐阜県の高校では教科の授業でキャリア教育を実施する場合、教育課程上の位置づけにはいくつかの類型があることが明らかとなった。即ち(1)「教科」と「その他の教育活動」の連携型、(2)「教科」型、(3)「総合的な学習の時間」内にキャリア授業設置型の3つである。これら位置づけの違いは、教師のキャリア教育の実践方法の違いであることに加え、学校が組織としてキャリア教育を推進しているか、が影響していた。

また、公民科「現代社会」の教育内容とキャリア教育との関連性について、学習指導要領や教科書から整理した。そのうえで、加藤(2015)が「公民科」でキャリア教育を実施するために示した要素を、基礎的・汎用的能力の中でも特にキャリアプランニング能力の視点から改めて整理し、以下の4点を特に重要な要素として抽出した。内容面では、(1)大項目「現代社会と人間としての在り方生き方」内の「ア. 青年期と自己の形成」と「エ. 現代の経済社会と経済活動の在り方」の基礎的・基本的な知識・技能、方法面では(2)キャリア教材の使用、(3)キャリアプランニングの機会の設定、(4)自己省察機会の設定、である。

岐阜県の高校の公民科「現代社会」におけるキャリア教育の実施状況を前述の4つの要素から調査した結果、基礎的・基本的な知識・技能については「エ. 現代の経済社会と経済活動の在り方」の部分に限り、調査した全ての学校が実施していた。しかし、「ア. 青年期と自己の形成」の部分の基礎的・基本的な知識・技能、キャリア教材の使用、キャリアプランニングの機会、自己省察機会を取り入れた授業を実施している高校は少ない状況である。

調査結果から、キャリア教育を実施している高校と実施していない高校ではいくつかの違いがみられ、(1)新設校であること、(2)進路多様校であること、(3)普通科以外の他科を併設していること、

(1) リクルート進学総研(2014)「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2014」

が教科におけるキャリア教育を活発化する傾向にあることが示唆された。また岐阜県では全高校が、キャリア教育の視点から教科目の内容を位置づけた目標・指導計画の策定を求められている。教師がその策定に関わっていない教師より、策定に関わっている教師ほどキャリア教育の取組みを積極的に実施していた。岐阜県における目標・指導計画の策定の取組から教科におけるキャリア教育の実施に対して、自治体による取組が進み一定の成果があるものの、普及については十分進んでないことが明らかとなった。

また、「教科」におけるキャリア教育を実施する上での課題は、教師自身が、「実践の方法がわからないこと」として、キャリア教育の方法を理解していないことがあげられる。先行調査⁽²⁾と比較すると、「キャリア教育の定義がわからない」、「キャリア教育を実施する意義がわからない」といったキャリア教育に関わる内容を課題としてあげる教師は少なかった。「現代社会」は、その教育内容からキャリア教育との関連性が強く、多くの教師は「現代社会」がキャリア教育に取り組みやすい科目であると捉えており、教科におけるキャリア教育を実施する必要性の認識が広まっているからである。次の段階としてキャリア教材の共有や、授業実践の方法まで踏み込んだ研修を実施することが重要である。

本研究では、教育課程上の位置づけ方によって生じるキャリア教育の差異や、同様にキャリア教育の要素を取り入れた授業と取り入れていない授業によって生じる効果の差異まで検証することができなかった。これらのキャリア教育が生徒の進路選択や基礎的能力の獲得などにどのような影響を与えているのか、を検証することができれば、教科におけるキャリア教育の推進に有効であると考えられる。これを今後の研究課題としたい。

〈参考文献〉

- 加藤春彦(2015) キャリア教育の視点を取り入れた高等学校公民科教育の探求一。東京学芸大学教職大学院年報3 15-24
- 小澤理恵子(2012) 公民科の授業を通じたキャリア教育に関する研究。山梨大学教育人間科学部・大学院教育発達科(教職大学院) 教育実践研究報告書
- 文部科学省(2011) 高等学校におけるキャリア教育の手引き。
- リクルート進学総研(2014) 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2014。
- 中央教育審議会答申(2011) 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」 p50

(2) リクルート進学総研(2014) 「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2014」